

1. 教員および授業の概要

① 教員名： 孟達来 (Möngkedalai)

② 担当科目

博士前期課程：中国語特別演習Ⅰ・Ⅱ、北東アジア研究指導Ⅰ～Ⅳ
北東アジア専門講義9（北東アジア比較言語文化）

博士後期課程：北東アジア超域研究指導Ⅰ・Ⅱ、特別研究活動

③ 教員のプロフィール

- ・中国社会科学院大学院民族学研究所博士課程修了 文学博士
- ・東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程満期退学 博士（学術）
- ・専門は、モンゴル語、アルタイ諸語、漢語と漢字音訳文献

④ 所属学会

日本モンゴル学会、日本語学会

⑤ 研究領域や関心をもっているテーマ

- ・モンゴル語とアルタイ諸語
- ・漢語と漢字音訳文献
- ・言語と社会・文化の関係
- ・中央アジア・北東アジア地域における言語文化交流

⑥ 研究指導方針

院生の希望する研究テーマに応じて、具体的な研究指導の進め方を考える。基本的には、モンゴル語やアルタイ諸語、モンゴル語やアルタイ諸語の漢字音訳文献、モンゴル語やアルタイ諸語に関わる社会と文化といった分野の研究指導を行う。研究には大量の言語データが利用されることが予想されるので、データの収集と整備を重視し、最初段階から、文献資料調査とフィールド調査の実施に関する指導と、データの分析・活用のためのコーパスやデータベース構築の指導を行う。また、データ分析・研究成果の整理・論文の構成・執筆等の段階で生じうる諸問題に対して、解決方法を一緒に検討する。

⑦ 指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- ・モンゴル語の研究、モンゴル諸語の比較研究
- ・アルタイ諸語の比較研究
- ・モンゴル語と漢語の接触と文化変容に関する研究

- ・『元朝秘史』『華夷訳語』等モンゴル語やアルタイ諸語の漢字音訳文献の研究
- ・北東アジア地域における文字伝播と文化交流に関する研究
- ・言語と社会・文化の関係についての研究

2. 研究業績リスト

① 著書

- (1)『北方民族的历史接触与阿尔泰诸语言共同性的形成』(『北方民族の歴史的接触とアルタイ諸言語の共通性の形成』) 中国社会科学出版社、2001年11月。
- (2)『《畏兀儿馆译语》汉字音译方式研究』(『《ウイグル館訳語》漢字音訳方式の研究』) 内蒙古人民出版社、2016年12月。
- (3)『『元朝秘史』におけるモンゴル語漢字音訳方式の研究』 風間書房、2020年3月。

② 主要論文

- (1)「『モンゴル秘史』家畜用語の研究」(共著)、早稲田大学モンゴル研究所紀要・別冊、2006年3月、全154頁。
- (2)「『華夷訳語』(甲種本)モンゴル語音節末子音の漢字音訳について」『語学教育フォーラム第13号・華夷訳語論文集』、大東文化大学語学研究所、2007年10月、143-153頁。
- (3)「コーパスに基づく『元朝秘史』モンゴル語音節末子音の漢字表記に関する考察」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』No.1、東京外国語大学グローバルCOE拠点、2009年3月、249-265頁。
- (4)「『元朝秘史』のモンゴル語漢字音訳における特殊表記方式について—『元朝秘史』四部叢刊本に基づく考察—」『北東アジア研究』第24号、島根県立大学北東アジア地域研究センター、2013年3月、61-88頁。
- (5)「『元朝秘史』のモンゴル語漢字音訳における音以外要素の関与について—モンゴル語音baの表記を事例として—」『総合政策論叢』第26号、島根県立大学総合政策学会、2013年8月、1-12頁。

3. 学生に対するメッセージ

言語を扱う研究には、場合によって大量のデータが必要となるので、そのデータの収集が求められます。一方、言語データを効率よく利用するためには、コーパスやデータベースの構築が必要となります。なお、このように整備されたデータは、一回(または数回)の研究利用に限らず、持続可能な利用にもつながるのです。各自の事情にもよりますが、最初の段階から、研究に必要なデータの収集と整備に心がけることをお勧めします。